

川崎・多摩丘陵の里山を守る会

熊野森トラスト

2004年秋号

事務局 伊中
TEL&Fax 044-866-7005



旧岡家の日本庭園で

お月見と三線(サンシン)

を楽しもう



岡さんの門と黒塀は武蔵溝ノ口駅南口から徒歩4分、久本神社から洗足学園に続く道沿いにありますから、皆さんも一度は目に触れたことがあるかもしれません。

久本山斜面緑地が続き、馬坂(まさか)下に樹木や竹林が茂り、溝口のマンション開発が進む中で、昔の面影を残した数少ない場所の一つです。

この家は、江戸時代から代々続いた医者として、初代高津村村長の生家として、久本貝塚、末長窪台貝塚、子母口貝塚などの発掘に取り組んだ橋樹考古学会ゆかりの場所として説明されています。

周りは文教地区で、庚申塔、地藏尊などの石仏や寺院、横穴墓などが点在し、高津区の緑と歴史にふれる散策コースです。

「旧高津区民懇話会」「まちづくり白書・キラリ高津」「高津の散歩道」「高津のももちゃん」や久本小学校副読本などにも岡家は登場します。浜田庄司記念館建設中止によりマンションモデルルームとして貸し出され続けても、なお貴重な役割を担っています。岡家跡地の黒塀・四脚門、石造物が点在する日本庭園は、貴重な市民の歴史を語る財産です。私たちはこの岡家跡地の門と庭を保全し、

「まちの庭」として再生させ、子ども達が地域の歴史を学び、イベントなどができ、高津のまちづくりを発信できる拠点にしたいと、署名運動をしました。皆様のご協力により請

願署名2359筆を持って、九月六日川崎市議会議長に提出しました。

(まちの庭)庭は農作業の準備の場でもあり、皆が集い自然や文化に触れ、まちづくりを支えた場所。都市化する高津の中で、「まちの庭」として位置づけ将来につなげていきたい。) 現在のご当主の岡信孝画伯は沖繩返還二十

周年を記念して、自ら収集した琉球漆器などを浦添美術館に寄贈し、同じ年にこの久本の、四脚門、蔵、庭園と石造物約五十点などを川崎市に寄贈しました。

それからおよそ十年目にあたる今年、岡画伯が愛した琉球文化を偲び、岡家庭園を会場に、十五夜と三線(サンシン)の会の開催を企画しました。

川崎市文化財課からの使用許可も得ました。長い歴史を見つめてきた四脚門のある庭園で十五夜飾りを行い、月を愛でながら三線の音と風と虫の声と歌が響きあうさまを楽しめます。

三線奏者は笹 正光さん。平成十六年度沖繩タイムス芸術選賞、古典芸能部門三線の部 新人賞に輝いた人、民謡も鳥唄もこなします。ぜひご参加ください。

二〇〇四年 九月 二五日(土)

雨天順延 九月 二六日(日)

午後四時半開場 演奏は五時から

地図は次頁コトバマンダラの欄にあります

「ターザンの木」の保全

をめぐって

「ターザンの木」その後

よくぞ「ターザンの木」と名付けられたものです。その響きは、何かワクワクする様な、森の楽しいイメージを抱かせます。

昨年十一月末に、保全活動に弾みをつけるため、そして何と言っても「ターザンの木」の知名度を上げるため開催した「コカリナコンサート」は、新聞やテレビに取り上げられ、大きな反響を得ました。

請願署名も、多くの方々の保全を願う気持と、ご協力で千五百名にもなりました。

七月十六日、その請願が川崎市議会環境委員会で傍聴者が見守る中、審議されました。委員の方々が「ターザンの木」を保全する方向で、市に対して活発に質問、意見を言っして下さいました。特筆すべきは、道路造成のために枝を伐採すれば「ターザンの木」ではなくなってしまう、道路を別に取り付けられないのか、子供達の情操教育のために現状のままに残さないか、町の木五十選にはならなかったけれど五

十一選目のつもりで大切にしたいなどの発言でした。

市の方からは六メートル道路造成の現計画を変更する事が出来ない旨と、「ターザンの木」がてんぐす病にかかっている、木の保全のためには枝の伐採は余儀ない状況であると答えました。審議は保全が全会派一致で採択されました。

「ターザンの木」の周辺は、マンション建設後提供公園になります。出来る限り緑が残された中にそびえる「ターザンの木」であってほしいと望みます。(草井 綾子)

ターザンの木請願審議を

傍聴して

「ターザンの木」がこんなに有名になるなんてちょっと前まで思いませんでした。署名を集めようとみんな言い出したとき、まず建設業者がその土地の所有者であり、民地についての請願はまともに審議されるかと危惧しました。でも「ターザンの木」から連続している緑地が残って欲しい、との強い気持ちの方がなり署名集めに踏み切りました。この気持ちを広めようとコカリナコンサートを開いたことが、まさかの転機になりました。ターザンの木という名にふさわしい「枝」は既に伐採されましたが、その土地に計画された道路が迂回される計画に変更されました。

そして、七月十七日の請願審議中、利用の少ない道路なので、道路上の高さ四、五メートル以下の枝だけ五本伐採すると説明されました。ある議員は本来、議会では、民地については討議しないが、住民が大切にし、川崎市に公園として移管されるので、採択すると言われました。『民地なのに採択される』この結果を生み出した、りっぱな枝ぶりの

スタジオの木は「ターザンの木」の名にふさわしく、これからも親しまれることを祈るばかりです。

(田中 郁子)



環境委員会審議を傍聴して

ターザンの木は多摩丘陵の尾根道にあります。そこは溝の口、末長を分ける尾根です。以前はこんもりした熊野森で、この木の全体の姿が覗えないほど緑深く、両者に緑陰と清々しい風と清冽な水を何百年も送っていました。

ここ数年のマンション開発で、あらわになった見事な樹形のターザンの木。その向こうに連なる緑地は、川崎市がAランクに評価し、緑地協定した場所。環境委員会の審議の中で、この場所を守る努力がどのようになされたのか、質問、意見のなかつたことに失望と悲しみを感じました。久保田 由紀子



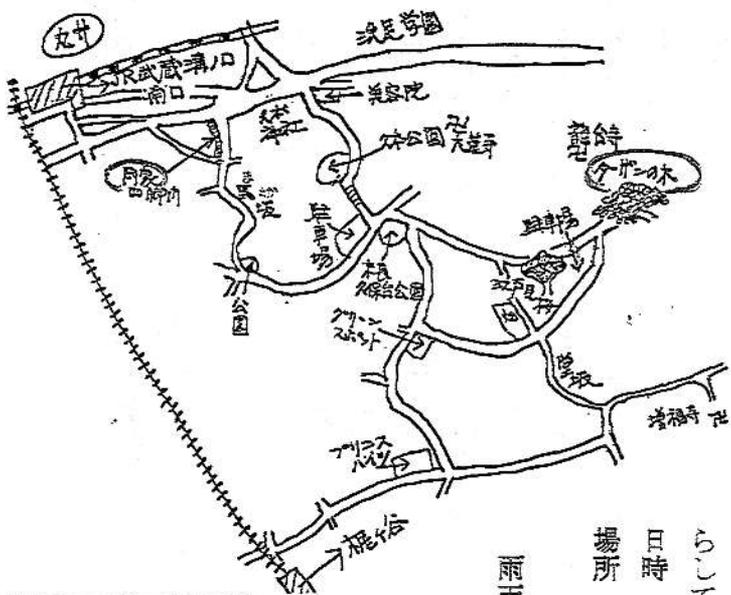
十月十日のお知らせ

「ターザンの木」の下で
枝に抱かれてコトバを聴こう

椿座による言葉語り

「コトバマンダラ」

日々の忙しい生活のひとつとき、ターザンの木に集い、耳を澄まし、葉のざわめきや風の音をききまわす。こゝにはかつて熊野社の森でした。



ターザンの木が伐採を免れたお祝いとして、椿座による言葉語りを行います。

朗読や詩吟とは違う、もう少し言葉そのものに比重がかかった営み、そして声をもつ力を大切に行っている椿座に演じていただきます。

ターザンの木には、その場所に相應しい物語がありますので、それに触れるように詩歌や散文を語っていきます。当日、どんな語りになるのか楽しみです。

お茶の用意をしてお待ちしています。どなたでも参加できますので、ぜひいらしてください。

日時 十月十日(日)午後二時半開演
場所 高津区末長

「ターザンの木」の下
雨天の場合は、増福寺に移動します。



椿座による言葉語り

映画「アボン・小さな家」上映会

ゆっくりとした時が流れる自然豊かなフィリピン・ルソン島北部山岳地帯の村。そこで100年前から暮らしている日系山岳民の中に、自然と共生する人の姿をみつめる映画です。

今年夏、日本各地で大規模な水害が起こりました。いかに科学技術がすすんでも、自然の威力にはかなわないことを思い知らされました。

日本に住む私たちは、長い間自然と共に生きてきたはずなのに、自然に感謝することを忘れてしまっていないか?そんなことを「アボン・小さな家」は静かに語りかけてくれます。

私たちの日常の意味を考え、豊かな暮らしとは何かを考える映画会です。監督とのトークも楽しみです。



11月30日(火) 18時より

2500円(食事付き)

会場 登戸アリエルダイナー



緑の中で暮らしたい

私の住む辰の谷には、いろんな生き物が棲息していました。夏の夜などは狸の親子が振りかえりながら、お稲荷さんの祠の裏に入っていく、目を合わせたこちらも幸せを感じたものです。

溝の口の駅南、徒歩5分、谷にさしかかると、空気がひんやりとしていたのに、そそり立つ壁のような地下型マンションの建設によって、熱気がこもるようになりました。もちろん狸の親子の姿はありません。お稲荷さん裏の杉の大木も切られました。

このように自然が壊された風景が高津区のうちこちに出現しています。コンクリートで囲まれた暮らしは、エアコンなしには耐えられません。そうなる、もう元には戻れない、一度失った環境は取り戻せません。緑の中で暮らすことは日本の文化だったはず。

大切な緑地です。緑地をこれ以上破壊されないように、自然との共生を図り、緑の中で暮らしたいというみんなの希望を、どうしたら実現できるのでしょうか。

(伊中)



第五回

川崎・多摩丘陵の里山を守る会

総会報告

第5回総会を7月3日(土)に開催、一年間の活動報告と来年の活動方針計画を承認し、懇親会を開きました。

「川崎・多摩丘陵の里山を守る会」は2000年8月に結成され、今回の総会で5年目の活動に入ります。

2003年度活動報告として特筆すべきは、新しいメンバーが増え、活動が広がったことです。

昨年は「ターザンの木」の保全を求める請願署名運動を5月から続け、十一月三十日には、「黒坂黒太郎カカリナコンサート」を開催し、広く市民に訴え、マスコミの協力も得て、世論を動かすことができました。この運動によってマンシヨンの提供公園の中に「ターザンの木」は残ることになりました。請願署名は千五百筆ほどになり7月に開かれた川崎市議会環境委員会によって趣旨採択されました。(協力を感謝します。

また、2004年4月には「春の里山を歩こう：植物観察会」を、高橋英先生を講師として開催し、引き続き、植生調査を2回続けました。

運営委員の有志は高津区都市マスタープラン構想検討委員会に委員として参加し、斜面緑地の保全に関する検討を進めました。

「どんぐり山トラスト」「向ヶ丘遊園の会」「久地緑地」の人たちの活動に参加するなどの連携を図りました。

毎月第3日曜日に末長久保台公園、ターザンの木周辺、末長熊野森緑地の定期的な草刈と、清掃作業などを続けました。会員によって、道路のわきや公園入り口付近などに花を植える活動も続けました。

里山活動と同時に、岡家の庭園をはじめとする地域の文化遺産を守る活動を続けました。

岡家跡地の門と庭の保全を願う「まちの庭」として位置づけられるよう、請願署名活動を始めました。

緑の活動団体助成事業として、「川崎市公園緑地協会」から2004年度3万円の緑化助成金を受けました。

2004年度活動方針

- ・多摩丘陵の緑地保全のための活動。
- ・緑地保全トラスト基金の継続募集。
- ・花と緑のまちづくり推進への協力。
- ・「多摩丘陵を歩く会」「トラスト歴史散歩」「自然観察会」「樹木・草

花・緑地のマップ作り」などの企画。

・里山活動のための勉強会の継続。

・毎月第3日曜日の定期的な草刈、清掃作業などの活動を継続。

・岡家の庭園など、地域の文化遺産を守る活動を継続。

・行政との協働、他の団体との交流。

・神奈川県トラスト協会へ働きかけ。

・NPO法人化に向けて検討を重ねる。

・熊野森緑地、ターザンの木などへの散策路案内掲示看板を設置。

・近隣住民と里山活動で交流を図る。

・ホーム・ページへの参加を募る。

今年度の予定

八月末日 岡家の門と庭を「まちの庭」に：請願署名を集約し、九月

川崎市議会に提出の予定。

九月十九日(日) 里山活動

九月二十五日(土)雨天の場合翌日

岡家庭園にて「お月見と三線の会」

十月十日(日) 椿座コトバマンダラ

ターザンの木の下で、コトバ語りの会を開催

の会を開催

十月十九日(日)草刈など里山活動

十一月十七日(日)草刈など里山活動

十一月二十一日(日)里山活動

十二月十九日(日)里山活動

一月 第3(日)里山活動

二月 第3(日)里山学習会

三月 第3(日)里山活動、

四月 第3(日) 里山活動

四月 植物観察会

五月 里山活動、月2回予定

六月 第6回総会予定

里山の活動は、夏季は9:30開始、それ以外は10:00開始とします。

九月二十五日に、岡家の庭で「お月見の会」開催予定ですので、九月十九日、九月二十三日(祝)は、準備のために岡家の庭の草刈と清掃をします。午前九時半集合です。ぜひご参加ください。

募集 年会費(8月から翌7月まで)2000円の振込みを郵便局でお願いします。
口座番号 00270-1-53171
加入者名 多摩丘陵の里山を守る会

基金のお願い(積みたてます)
一口3000円以上、高校生以下1000円です。
口座番号 00280-2-53172
加入者名 久本山・熊野森ナショナルトラスト

事務局連絡先 伊中悦子
TEL&FAX 044-866-7005